

**令和元年度（2019年度）第1回  
熊本県男女共同参画審議会議事録  
（概要版）**

**令和元年（2019年）9月11日（水）**

**男女参画・協働推進課**

# 令和元年度（2019年度）

## 第1回男女共同参画審議会議事録

令和元年（2019年）9月11日（水）14:00～16:00

県庁本館5階審議会室

### 1 開会

### 2 挨拶 環境生活部県民生活局 無田局長

### 3 議事

#### (1) 男女共同参画に関する施策の評価について

事務局から資料1に沿って、第4次熊本県男女共同参画計画で定める成果目標の指標についての評価結果等を説明

#### 高山会長

それでは、ただいまの説明について、何かご意見・ご質問があればお願いします。

#### 森委員

資料1の14ページ図表20「教育委員に占める女性の割合の推移」の県の委員数が5人と少ないが、これは全体の人数が変わってきているのか。平成23、24年は50%となっているが、5人だと50%とはならないので、4人とか6人とかであったのか。全体の人数が少ないということと、人数が変わってきている可能性があるのでは人数の注記等がないとミスリーディングになるのでは。

#### 事務局

ご指摘の件に関しては適切に対応したい。

#### (2) 男女共同参画に関する県民意識調査について

事務局から資料2に沿って、令和元年度男女共同参画に関する県民意識調査の実施について説明

#### 高山会長

ただいまの説明について、ご意見・ご質問があればお願いします。

#### 松野委員

問7の選択肢7「家族間での家事などの分担について十分に話し合うこと」について、家事だけでなく育児についても男性の参画は大きな課題なので、「家事・育児など」と、育児についても意識啓発を踏まえて入れていただけたらいいのではないか。

問12の選択肢4にも「家事・育児参加への理解・意識改革」と入れていただければ。また、選択肢9で、労働局に寄せられる相談では、育児や介護については、非正規労働者が取得を希望すると取得させず退職に追い込まれる、あるいは、ハラスメントによって退職に追い込まれる、という相談が多く寄せられているが、昇進などの不利益といった相談はなかなか実態としてないため、実態に合わせ、「育児や介護による仕事への影響を理由としたハラスメントや退職勧奨など不利益な取扱いの禁止」を一例として提案したい。

問12の「出産後も離職せずに同じ職場で働き続けるため何が必要か」という項目について、今現在、働いている方が働き続けていただくことも大事であるが、潜在的な労働力を掘り起こすという意味で質問するような項目、例えば、「育児や介護などで辞めた方に対して、再就職するとしたらどのような支援が必要ですか」という問いに、「育児や介護の施設が足りない」とか、「働くことに対して家族や地域の理解がない」とか、「職場の理解が必要」とか、ブランクが空くと復職に当たっての不安があるので「研修等の実施を求めたい」とか、短時間勤務やテレワークなどの柔軟で多様な働き方が認められれば仕事に出られるなどがわかる項目があると、第5次の計画策定にも施策として活かしていけるのではないかと。

#### 事務局

「家事・育児」など言葉については反映できると思う。問12の9など実態に基づくご意見を踏まえ改めて整理をするが、表現の仕方についてはご相談する。設問追加については全体のバランスを見て検討させていただきたい。

#### 嶋田委員

人材確保は大変な状況で、特に潜在の方をどうやって現場に復帰させるかに力を入れているところだが、多様な働き方や今の時代に合わせた知識や技術の不足などに対応する研修など、働くために必要なニーズがわかると、潜在とか定年後の人たちをどうやって復帰させるのかが見えてくると思う。

#### 高山会長

大変示唆に富む御意見。女性の医者が大変たくさんいるが辞めて復帰されない方が多く、どういふものがあれば復帰できるのかと弁護士会で議論したことがある。女性の弁護士も同じような状況で、新しい知識とか情報についていけないという不安から復帰されない方が多く、研修は必要だと10年ぐらい前から言われているが、確かに今、それが必要と思う。

#### 馬場委員

この資料を見たときに非常に感じたのが、前半の部分は男女共同参画の認知を高めたいという設問がすごく多いというのが本当の感想。問11とか問12については、

直接的な設問で非常に評価ができる。私どもの会社でも実際にどうするかというときには、こういったことを聞かないと話が進まない。問題だ、大変だということをいくら聞いても話は進まないのも、もっとこういった具体的な設問が増えていくと施策が進むのではないかと思うし、会長が言われたように、女性、受益者が知らないことも非常にあると思うので、県ではこんなことが出来るんだ、世の中ではこんなものがあるんだ、というのをもっと知らせていくという意味ではこういった形式の方がいいのではないかと感じる。

#### 蓮本委員

資料1で、育児休業取得の目標達成が非常に困難とのことだったが、今回のアンケートの仕事と家庭・地域生活の領域について、男性の育児休業が取れない本音の部分を探り出す設問もあれば、次の施策のアイデアとしてつながっていく可能性がなきにしもあらずと思う。学校現場でも男性教諭の育児休業の取得は低い。しかし、家庭の状況により取得していく状況も微々たる数値ではあるが現実としてあるので、今直面している男性の、また、その家族の気持ち的なものが聞ければプラスになっていくと思う。

#### 森委員

問12の選択肢11が「特にない」で、12が「わからない」であるが、他の設問を見ると「特にない、わからない」があつたりなかつたりする。「わからない」があるとないとでは、○のつけ方は回答者で変わってくる可能性は十分あるので、他の設問の選択肢と揃えるなど意識した方がいい。問17の選択肢が、「中学卒業後にあった」「高校卒業後にあった」というのは、中学卒業後は高校卒業後に自動的に含まれるなどするので、検討がいるのでは。問18は、例えば問17は「いくつでも」と太字アンダーラインがあるが、問18はないので、同じようにした方がいい。形式的なことだが、最後に整えていただければ。

#### 高山会長

感想を述べさせていただく。今回、ドメスティックバイオレンスについて、以前と違って具体例が記載されているのがすごくいいのかなと。男女共同参画というのは、意識調査をすると、総論賛成、各論反対となるので、具体的行為についておたずねをしないとなかなかわからない。もちろんその意識を変えていくことがすごく大切だが、なにが男女共同参画なのかがわかっていないので、性別役割分担意識は反対だが、この家事はどうする、この介護をどうする、といったときに、たぶんそのような答えはでてこないのではないかと常々思っている。なので、今回、具体的に聞かれているのは全体的としてはすごくいいのかなと思う。それから、問20の震災の避難所というのは今回初めて設けられたもので、いつこのような状況になるかというのがわからないので、すごく良い問だと思う。

## 事務局

意識調査について、ご意見いただき感謝する。ご意見を踏まえて検討すべきところ、形式等も注意をしなければいけないということがわかった。この調査は次の計画をつくるための5年に1回の調査ということで、継続して経過年をみるもの、意識は少しずつあがっているがなにか変わっていないのは、行動に伴っていないとか、そういったいろいろな考察をするという点から選んだもの。とくに新しい項目については、再度答える側の立場になってもう1回見直しをしたい。この調査はいろいろ抽出して質問をするので、あまり多いと回答者の負担になったり、回答しにくい質問があるなどするので、いろんな目でみたつもりではあったが、まだまだ見直しが必要と思うので、ご意見を踏まえて整えていきたい。

## 4 報告

### (1) 県の各種審議会等における女性委員の登用状況について

事務局から資料3に沿って報告

### (2) 熊本県配偶者等からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する基本計画第4次改定について

事務局から報告

### (3) 女性活躍サミットの開催について

事務局から報告

## 松野委員

ちらしを見ての質問。「Higo Rocka」というのはどうサミットと影響するのか。「肥後六花」のように輝いてほしい等があれば、「趣旨・目的」に入れてもよいのではないかと感じた。

## 事務局

「Higo Rocka」については、本サミットについてプロポーザル方式で提案いただき、今回受託のJ:COMが、熊本の六つの花のように、地域活動、主婦、学生など、いろんな分野で活躍する方々をイメージして、六つの「肥後六花」ということで提案いただいたことから今回の「Higo Rocka」につながっている。

## 嶋田委員

サミットには必ずテーマがでてくるが、それはなにかあるか。

#### 事務局

テーマとしては、サブタイトルのようなかたちで検討しているところであるが、イメージとしては、「肥後六花」にあるとおり、「肥後六花」というのは、どれが一番きれいか、一番か、ということではなく、女性の活躍のかたちは様々ある、企業でがんばることも素晴らしいが、地域活動も女性の活躍の一つのかたち、というようなイメージを持っているので、「肥後六花」に関連し、それぞれが違ってみんないい、というイメージのサブタイトルを考えている。

#### 嶋田委員

せっかく「肥後六花」のいいものがあるので、熊本で開くのであるから、熊本をアピールする意味でも、「趣旨・目的」のところに、入れたほうがよいのでは。

#### 事務局

御提案の件については検討したい。

## 5 意見交換

#### 高山会長

今日の議題、報告等について、ご意見、ご質問等あればお願いします。

特にないようであれば、フリートークで、日頃思っていることなどでもかまわない。

#### 森委員

県民意識調査について、今回は無理と思うが、最近のアンケート調査は紙でもやるが、QRコードを入れてスマホ画面とか、国勢調査でもインターネットでも回答できる。予算の関係もありなかなか難しいところはあると理解しているが、今後検討するとよいのでは。私自身、社会調査を何度かしているが、紙で返す方も依然多いが、半分くらいはスマホ等で返す方もいる。紙だとどこに○をつけてるのかわからないとか、変な風に○をつけたりとか、回答忘れとかいろいろあり、正確な集計がなかなか難しいが、スマホだとそのようなことがシステムでコントロールできる。場合によっては費用が紙よりも安く済む場合もあり、スマホの普及も上がってくると思うので、今後、検討の余地はあるのではないか。

#### 馬場委員

資料1の32ページで、「40歳以上の男性自殺者が自殺者全体の約50%を占めている。」とあるが、この理由は定まっているか。

## 事務局

だいぶん前の情報で恐縮だが、全国的に男性の自殺率が女性よりも高く、年齢的にも40歳以上に高いと言われている。男性の方が相談していないといったことはひとつ理由として言われているが、最近の状況については詳細に把握していない。

## 高山会長

男性の40歳以上の自殺者の理由としては、経済的問題というのがあり、多額の負債を抱えて保険金で返すという方もいるし、借金の返済ができずそれを苦にして亡くなる方もおられる。それと、健康上の問題がかなりあったと記憶している。不正確かもしれないが、そのような理由だったと思う。

他にないか。

さきほどの森委員からのアンケートの方法については、そのうちおそらくそのようなことも検討されると思うが、インターネットで回答する環境にない方にも配慮されているのかなと思う。弁護士会もそのようにしているが、時々途中でどうにも回答できなくなったりする。結局そういうときはプリントアウトして書いて出すなどしているので、しばらくそのような状況が続くかと思うが、スマホ等を使ったアンケートは今から検討されるべきものと思う。

## 森委員

今の点について補足だが、もちろんそういうことがあり、特に、使えない方とか持っていない方もおられるので、私たちがよくやるのは、両方併用でやるということ。紙を郵送するが、その最初のページにURLやQRコードを記載し、インターネットで返答したい方はアクセスしてもらうようにすると、必ずしも若い方ばかりではなく、お年を召された方も大体半分くらいスマホで返してくださる。少し費用が上がるが、両方併用していくことで普及が万全になるのではないかと思い、補足する。

## 高山会長

さきほどの森委員のご助言のとおり、アンケートの選択肢に「特にない」「わからない」などがあると、確かに見ていて気になる。アンケートというのはこういうものの数字を伸ばしたいというと、そういう風に作れてしまうということもあるので、選択肢があったりなかったりするとちょっと気になるのかもしれない。

私から質問だが、今、児童虐待がすごくテレビでも騒がれているし、今回も児童虐待の件数が増えている。件数が増えているのは、今まで虐待として捉えられてなかった夫婦間の暴力での面前DVというのが入ってるからかなと思うが、児童虐待の背景にDVが存在するということは、今、脚光を浴びており、私は仕事の関係でずいぶん昔からわかっていたことだが、児童虐待とDVというのは、連携をされているか。どんな状況を教えてもらいたい。

#### 事務局（子ども家庭福祉課）

児童虐待とDVについては、会長が言われたとおり、かなりの部分で連動しているというのが今の分析の状況。昨年を目黒区の事件、今年1月の千葉県的事件、最近の鹿児島県出水市の事件が記憶に新しいところと思うが、いずれもDVと児童虐待がセットで行われていたという状況。そういったものも含め、今、本県では、中央児童相談所の中に女性相談センターがあり、ここでDVの受付をしているが、DVで相談があり、子どもさんが関係している場合には、児童相談所と情報を共有して、本当に支援が必要な場合には早急に支援をしていくといった取り組みを行っている。評価資料1の中の36ページの「(2) 児童虐待相談件数の推移」で、平成30年は1,532件という数字が挙げられているが、この数字の約半分が警察からの面前DVの通告。平成26年から数字が急激に上がっているが、これは平成26年から警察が面前DVの通告徹底を行うこととなり、情報共有を行うこととなったためであるが、やはり、DVと虐待はかなりの部分で根っこが繋がっているケースが多いため、警察としっかりと連携を図り対応している。

#### 蓮本委員

資料1の36ページの「3 女性の健康の状況」の中の人工妊娠中絶実施率が全国を上回っていることは教育関係者の中でも熊本県の非常に大きな課題であると意識しているが、実際数値が改善できておらず高い状況であり、37ページをみると、多くの年齢層において中絶をされているという女性の非常に厳しい現状を表から感じた。教育現場としても、この数値についてはしっかり受け止めていかなければいけない。理由は記載されていないが、DVであったり、経済的困窮であったり、いろいろな理由があると思うが、承知であれば教えていただきたい。

#### 事務局（子ども未来課）

理由について過去に分析したこともあると聞いているが、結局、はっきりした理由は分かっていない。九州が全般的に人工妊娠中絶率が高いと言われており、熊本県以外の上位の県を見ても、大体九州で占めている。我々が日頃連携させてもらっている専門医の話によると、県内病院からの人工妊娠中絶に関する報告の対象が、必ずしも熊本県に居住する方に限らないということで、例えば、「県北エリアの医師からの報告の中には、福岡や佐賀あたりの方々の数字も入っていたり、逆に言うと、福岡の病院にも熊本の方が含まれる場合もある」など、数字の取り方もあり、なかなかはっきりとした理由は導き出せていない。ただ、この問題に関しては、教育委員会とも連携して、特に若い時期からの性教育に関する取組み等も進めており、例えば20歳未満の数値の改善も少しずつ見られているといった報告も受けている。そうした子どもたちが段々社会人になっていくことで、上の世代の中絶率の低下にもつながるよう、今後も引き続き取組みを進めていきたいと考えている。



### 高山会長

今の中絶率について、九州全体が多いということであれば理由はそれなりに出てくるかもしれない。最近はそうでもないが借金の自己破産の申立件数が九州が圧倒的に多いなど、地域性というのが背景にあるのではないか。それはまた機会があるときにでも調査していただくと助かる。

今一番貧困対策で困っているのは高齢女性じゃないかという話がある。もちろん、さきほど出た高齢の男性の方の自殺の中に、多分経済的な問題も含まれていると思うが、高齢女性の貧困対策はあるか。そういう部署とか。

### 嶋田委員

これから先の100年時代、100歳人口が増えてきている中で、この前、どのようにその最後のほうを見ていくか、という研修をやり、70、80歳代の男性が参加されていたが、この先具合が悪くなったりしたときにどうするかという備えが全然できておらず、家内がいるから、とおっしゃる。じゃあ、奥さんが先に亡くなったり、奥さんも認知症だったりというときはどうするか、というと、それはそのときの成り行きだとおっしゃる。男性も女性もこれからの長寿社会をどう生きるか、高齢になったときの生活をどうするかを一緒に考えていく場をしっかりとつくりつけないと、いざ高齢になり年金だけになってきたときに、施設に入らなければいけないがいくらかかるのか、どういう施設があるのか、そういったところを全然みな意識していない。これから長寿になってくる時代を私たちが過ごすときに、男性も女性も過ごし方とか、そこに係る社会的課題とか、経済的なものとか、近所の人としっかり連携しておく「近所力」を持っておくことなど、そういうところを男女共同の中ではしっかりとみんなで学んでいかなければいけない、考えていかなければいけないということを感じたので、一言述べさせていただいた。

### 高山会長

そういうことも検討されているということはないか。

### 事務局

先ほどの会長の高齢女性の貧困対策と、嶋田委員の人生100年時代についてのご意見、ご感想を非常に大きな話と受け止めている。男女共同参画にしても、私ども意識啓発を中心に行っているが、これからそういう社会で家族の在り方とか、自分の生き方とか、そういったところもしっかり情報、動きを知っていただき学び考えていただくため、広く様々な切り口から様々な段階において事業をしていきたい。各医療や福祉の方も個別にそれぞれの対策はあると思うので、そういったところをトータルに見ていく必要があり、アンテナを高くして今後の暮らしとか生活に少しでもみなさんに役立つようなことも理想としてはやっていきたいと思っている。

#### 渡邊委員

先ほどからの話で、自らの経験を踏まえて話させていただきたい。私も義理の父を15年ほど介護し、11年くらい前に義理の母が亡くなって義父を介護施設にお願いすることになったときに、脳梗塞で目しか動かない方がたくさん入所され、胃ろうをされていた。その後義父はグループホームに移り、今年また従前のような施設に入所することになったところ、胃ろうの方がかなり少なくなっており、医師から現在は胃ろうをせず自然死へという流れになっていると聞き、実際義父も自然に最期を迎え、状況が変わってきていることを感じた。

#### 高山会長

家事・育児とか介護とかを男女を問わず全員の方がしていると、高齢になったとき、先ほどの家内がいるからいいです、というようなことではなくて、自分の問題として捉えられるし、そこをどうやって乗り越えていくかという力が身につくのではないかと思う。

#### 松野委員

高齢者の人生100年時代を見据えた社会参画というのはこれから大変大きな国の課題になると思う。労働局でも職業安定所で職業とのマッチングを図っており、これまでシルバー人材センターなどを通して生きがいを持った働き方へつなげていこうと進めてきたが、そういった取り組みというのも、働き続けたいという意欲のある高齢者の方が増えてきているので、それも今までのイメージのような清掃とか草刈りとか、どちらかという地域に対するボランティア的な働き方ではなく、相応の経験とか技術を持った方により働き続けていただき、後継の方、次世代の方に引き継いでいただきたいという働き方に変ってきているので、国だけではなく、県、市、地域なども連携しながら長寿社会へ向けた取り組みがとても大事になると思う。

#### 高山会長

そういう情報をどんどん発信していただき、共有していけばいいのではないかと思う。

#### 渡邊委員

資料2の問20の「熊本地震を振り返り、問題であったと考えること」で、知り合いから聞いた問題として、せつかくの機会なので発表させていただきたい。小さいお子さんがいる若い男性から、男性の授乳室がなく、授乳室に入ると女性が授乳されている中に男性はとて入れなかったため、男性の授乳室があったらよかった、という話があった。他に、避難所運営の男性から生理用品が1人1個配られたが、赤ちゃんから80歳以上の女性まで1人1個と、女性にしたら笑ってしまうような話を男性はわからないのでされていて、配布を受けた女性たちがトイレに段ボールで棚を作り、

生理用品を置いて1人いくらでも良いとし、日によっても違うし、個人差もあるので好きなように使ってもらった、という話を聞いた。あと一つは、障がいを持つ赤ちゃんがどうしても布おむつでなければいけないのに、避難所の運営リーダーから「非常時に贅沢を言うな。紙おむつを使え」と言われたとのことで、どうしても障がいのため使えなかったため、知り合いに別の県から救援物資として運んでもらったが、とてもつらかった、という話を聞き、女性の目線の必要性を感じた。

#### **高山会長**

このようなことは東日本大震災あたりからかなり注目されてきているところで、多くの意見がアンケートで返ってくるのではないかと期待している。

今、みなさんから出た意見についても、今回の議事の中で必要なものについては検討していただくようお願いする。

終了予定の時間が近づいているので、閉会させていただきます。

## **6 閉会**